

医療—介護—住民—行政の連携を育む「コラボ☆ラボ」の全国展開とその効果の検討



井階 友貴 氏

福井大学医学部地域プライマリケア講座 講師

要旨

医療介護関係者だけが連携を深めるのではなく、地域住民、行政関係者、医療／介護関係者の4者が密に連携を取りながら、地域住民が主体となって自分たちの地域でどのような地域包括ケアが求められているかを議論し創造する必要がある。今回、福井県高浜町での4者の協働の実践をふまえて、協働の輪を全国に広めるためのワークショップ「コラボ☆ラボ」を開発し、全国で希望地域を公募し8地域で開催した。開催後、希望者には「コラボ☆ラボ☆ボランティア」に加入いただき、メーリングリスト上での相談や情報交換、および他の地域でのコラボ☆ラボへファシリテータ参加をしていただくことで、全国のつながりとして醸成していった(平成27年5月現在、70名が加入)。コラボ☆ラボ参加者に開催前／後の意識変化を問うアンケート調査を実施、医療・介護への関心・理解、医療・介護問題への活動意欲、医療—介護—住民—行政の連携、そして医療・介護の満足度や安心度を向上させることが示唆された。今後も継続して希望地域を支援していくと同時に、コラボ☆ラボ☆ボランティアの交流を継続して行い、互いの地域の活性化に努め、平成27年度以降も新規開催希望地域を継続して募集し、予算に応じた支援をコラボ☆ラボ☆ボランティアメンバーとの協働を以て実施、各地の理想の地域包括ケアの土台を担う協働を創出すべく、全国への拡充を図る予定である。

1.活動の背景

- ・未曾有の高齢化社会に対して地域包括ケアが注目されて久しく、医療・介護関係者間のネットワーク構築のための手段は多く開発されているが、医療・介護関係者と住民・行政関係者のネットワークを醸成する手段は、未だ確立していない。
- ・これからは、地域包括ケアの現場で、地域住民、行政関係者、医療／介護関係者の4者が密に連携を取りながら、地域住民が主体となって自分たちの地域でどのような地域包括ケアが求められているかを議論し創造する必要がある。

2.活動の概要

(1)福井県高浜町での医療—介護—住民—行政の協働

- ・福井県高浜町では、福井大学医学部地域プライマリケア講座、高浜町地域医療推進室、たかはま地域医療サポーターの会が中心となり、医療—介護—住民—行政

の連携によるさまざまな活動を展開し、次世代の育成に一定の効果を残している。

- ・その連携の強化のための手法として、「コラボ☆ラボ」を開発。

(2)医療—介護—住民—行政の連携を育む「コラボ☆ラボ」の特徴

- ・地域の医療・介護問題解決のためのロジックツリーの手法にワールドカフェの要素を取り入れた、立場の異なる者同士の対話の手法。

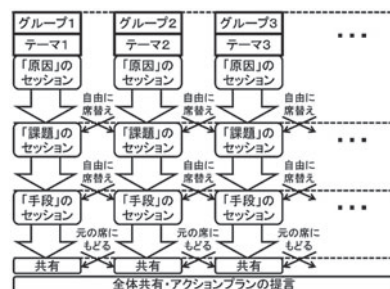


図1「コラボ☆ラボ」の手順

- ・互いの立場の違いと意見の共通点を実感し、距離を縮めることができる。
- ・地域の医療・介護問題に対して、一定の解決策を提示することができる。

(3)「コラボ☆ラボ」の全国展開

ア. 希望地域の公募とワークショップ実施

- ・全国の全市区町村へのリーフレットの印刷・送付、およびfacebook (ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の広告により、北海道から沖縄まで、平成26年度(助成期間)内に8か所(福井県大野市、福井県小浜市、千葉県千葉市、沖縄県金武町、青森県大間町、香川県高松市、奈良県香芝市、北海道函館市)で「市民—行政—医療—介護 協働創出ワークショップ『コラボ☆ラボ』」の実施地域を決定した。

イ. 支援内容

- ・福井県高浜町の市民団体「たかはま地域医療サポーターの会」メンバー、町長や副町長などの行政関係者、医師・看護師などの医療従事者、後述のコラボ☆ラボ☆ボランティアに所属いただいた方を中心に、ワークショップ「コラボ☆ラボ」のファシリテータを選出して実施した。
- ・実地地域での宣伝のためのチラシ印刷や、当日の資料の印刷の支援も行った。

ウ. 開催地域の継続的支援

- ・平成26年11月に福井県大野市からの視察を受け入れた。
- ・コラボ☆ラボ開催者および参加者のうち希望者には、「コラボ☆ラボ☆ボランティア」というメーリングリストに加入いただき、メーリングリスト上での相談や情報交換、および他の地域でのコラボ☆ラボへファシリテータ参加をしていただくことで、全国のつながりとして醸成していった。平成27年5月現在、70名の方に加入いただいております、活発な交流が行われている。

3.活動の評価

(1)ワークショップ参加者アンケートの概要

- ・コラボ☆ラボ参加者に開催前／後の意識変化を問うアンケート調査を実施した。内容は以下の通りである。
 - Q1.あなたの地域の医療・介護に、満足している。
 - Q2.あなたの地域の医療・介護で、安心して生活できる。
 - Q3.あなたの地域の医療・介護施設／従事者を、信頼している。
 - Q4.あなたの地域の医療・介護に関心を持っている。
 - Q5.あなたの地域の医療・介護の現状を理解している。

Q6.あなたの地域では、住民にとって行政／医療／介護は身近な存在である。

Q7.あなたの地域では、住民—行政—医療—介護は互いに協力的である。

Q8.あなたの地域では、行政、医療、介護の間で必要な情報を共有できている。

Q9.医療・介護のために、自分でできることをやってみよう。

- ・計8回のコラボ☆ラボ参加者316名に対して調査を実施し、278名から回答を得た(回収率88%)。

(2)アンケートの結果

- ・Wilcoxonのsigned rank testにて解析、Q6以外のすべての質問で有意に参加者の意識が向上していることが分かった。
- ・コラボ☆ラボは、医療・介護への関心・理解、医療・介護問題への活動意欲、医療—介護—住民—行政の連携、そして医療・介護の満足度や安心度を向上させることが示唆された。

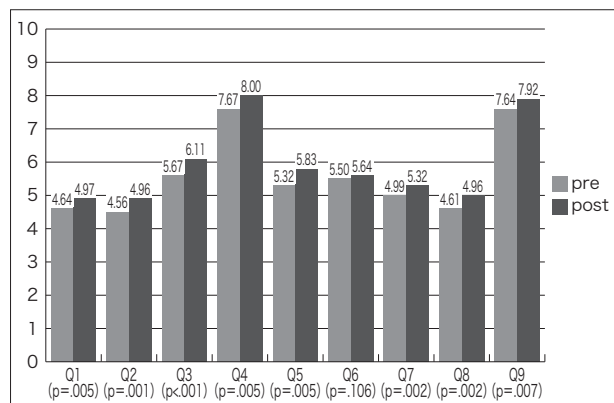


図2 コラボ☆ラボ参加者アンケート結果

4.活動の今後

- ・コラボ☆ラボ継続開催により更なる医療・介護への関心・理解、医療・介護問題への活動意欲、医療—介護—住民—行政の連携、そして医療・介護の満足度や安心度の向上が期待できるため、平成27年度以降も継続して希望地域を支援していく。一部地域の継続開催が決定している。
- ・70名に増加したコラボ☆ラボ☆ボランティアの交流を継続して行い、互いの地域の活性化に努める。
- ・平成27年度以降も新規開催希望地域を継続して募集し、予算に応じた支援をコラボ☆ラボ☆ボランティアメンバーとの協働を以て実施、各地の理想の地域包括ケアの土台を担う協働を創出すべく、全国への拡充を図る予定である。